

# ADHDの診断基準 (DSM-TR)

## 注意欠如・多動性障害 (Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder)

A (1) か (2) のどちらか:

(1) 以下の不注意の症状のうち6つ (またはそれ以上) が少なくとも6ヵ月以上続いたことがあり、その程度は不適応的

で、発達の水準に相応しないもの:

### 不注意

(a) 学業、仕事、またはその他の活動において、しばしば綿密に注意することができない、または不注意な過ちをおかす

(b) 課題または遊びの活動で注意を持続することがしばしば困難である

(c) 直接話しかけられた時にしばしば聞いていないように見える

(d) しばしば指示に従えず、学業、用事、または職場での義務をやり遂げることができない (反抗的な行動または

指示を理解できないためではなく)

(e) 課題や活動を順序立てることがしばしば困難である

(f) (学業や宿題のような) 精神的努力の持続を要する課題に従事することをしばしば避ける、嫌う、またはいやいや行う

(g) (たとえばおもちゃ、学校の宿題、鉛筆、本、道具など) 課題や活動に必要なものをしばしばなくす

(h) しばしば外からの刺激によって容易に注意をそらされる

(i) しばしば毎日の活動を忘れてしまう

(2) 以下の多動性-衝動性の症状のうち6つ (またはそれ以上) が少なくとも6ヵ月以上持続したことがあり、その程度

は不適応的で、発達水準に相応しない:

### 多動性

(a) しばしば手足をそわそわと動かし、またはいすの上でもじもじする

(b) しばしば教室や、その他、座っていることを要求される状況で席を離れる

(c) しばしば、不適切な状況で、余計に走り回ったり高い所へ上がったりする (青年または成人では落ち着かない

感じの自覚のみに限られるかもしれない)

(d) しばしば静かに遊んだり余暇活動につくことができない

(e) しばしば"じっとしていない"またはまるで"エンジンで動かされるように"行動する

(f) しばしばしゃべりすぎる

### 衝動性

(g) しばしば質問が終わる前に出し抜けて答えてしまう

(h) しばしば順番を待つことが困難である

(i) しばしば他人を妨害し、邪魔する (例えば会話やゲームに干渉する)

B. 多動性-衝動性または不注意の症状のいくつかが7歳未満に存在し、障害を引き起こしている  
C. これらの症状による障害が2つ以上の状況において (例えば学校 [または仕事] と家庭) 存在する

D. 社会的、学業的または職業的機能において、臨床的に著しい障害が存在するという明確な証拠が存在しなければならぬ

E. その症状は広汎性発達障害、統合失調症、または、その他の精神性障害の経過中のみ起こるものではなく他の

精神疾患 (例えば気分障害、不安障害、解離性障害、またはパーソナリティ障害) ではうまく説明されない  
(DSM-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル, 医学書院, 2004)